



研究者名※	麦谷綾子	学位※	博士(学術)
所属※	人間社会学部 心理学科	職名※	准教授
連絡先	mugitanir@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/mugitanir		
研究分野※	子ども学・実験心理学		
研究キーワード※	発達・子育て、感覚・知覚・感性、思考・推論・言語		
共同研究・競争的資金等の研究課題	ゲーミフィケーション・機械学習を利用した幼児の自己身体認識評価課題の開発と評価(科学研究費・基盤B・研究分担者、2019-2022年) 特異的言語発達障害児の音韻知覚・語彙習得困難の背景メカニズムに関する実証的研究(科学研究費・若手B・研究代表者、2009-2011)		
社会貢献・産学官連携活動等	新潟県私立保育園連盟主催「保育職員専門研修(3)」講師。新潟、(2018年9月) 日本赤ちゃん学会主催「音楽表現講座」講師。兵庫、(2019年9月) 大阪市私立保育園連盟主催「連続講座Ⅱ乳児保育研修」講師。大阪、(2021年9月・遠隔開催)		
受賞歴			

研究領域	(SDGs)
研究テーマ※	言語・非言語的コミュニケーション発達過程の多角的検討
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>私の専門は発達心理学、なかでもコミュニケーション発達です。長年にわたり、「言語コミュニケーションのはじまりとしての乳幼児の音声獲得」に着目し、日本語音声に特有の知覚(聞こえ)や生成(声)の発達過程を、行動実験や言語間比較、音響解析から実証的に検討してきました[e.g. 1]。</p> <p>さらに最近では、親子間の相互コミュニケーションの発達に興味を広げ、複数の共同研究者とともにコミュニケーションの成立過程とその基盤の科学的解明を目指す研究を展開しています[2]。例えば、種々のあやし行動の際の母子の心拍を計測し、歌などの音楽的な刺激がこどもの心拍を下げることに、その際にこどもを揺らす親の動作が心拍低下に相乗的に作用することを明らかにしました[e.g. 3]。また、音声聴取の際の母親の重心移動を測定することで、乳児の泣き声が母親の衝動的な接近行動を引き起こすことや、母親のストレスと接近行動が関連すること、オキシトシンというホルモンが接近行動を緩和する可能性を示しました[e.g. 4]。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>行動実験とともに、心拍やホルモンなどの生理指標を用いることで、これまで解明されていない親子関係の構築や相互コミュニケーションの背景メカニズムに多角的にアプローチできると考えています。社会に存在する虐待や紛争といった種々の具体的な課題の解決に取り組む上で、人間のコミュニケーションの在り方を基礎研究の視点から理解することが、その一助になると考えています。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <p>乳幼児だけでなくその親を対象とした計測を行うこと、行動実験に加えて生理指標なども併用して多角的、実証的に研究を行っている点に特色があります。</p>
本研究関連特許・論文等	<p>[1]Mugitani, R., Kobayashi, T., Hayashi, A., & Fais, L. (2019). The Use of Pitch Accent in Word-Object Association by Monolingual Japanese Infants. <i>Infancy</i>, 24(3), 318-337.</p> <p>[2]麦谷綾子. (2021). こども関連刺激に対する親の感受性・応答性の検討 感情コミュニケーション研究会講演</p> <p>[3]Hiraoka, D., Ooishi, Y., Mugitani, R., & Nomura, M. (2020). Relationship between oxytocin and maternal approach behaviors to infants' vocalizations. <i>Comprehensive Psychoneuroendocrinology</i>, 4, 100010. 1-7.</p> <p>[4]吉村麻美・渡辺謙・梶川祥世・河西奈保子・麦谷綾子. (2021). 音楽が乳児の心理生理状態と母親のあやし行動に与える影響. <i>日本音響学会誌</i>. 77(10) 626-633.</p>
共同研究・外部機関との連携への期待	